学校番号	306

令和３年度　芸術科（書道）

教科	書道	科目	書道Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「　書Ⅲ　」　（教育図書）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・今まで学習してきた様々な書体の古典臨書に取り組み、技法を磨き、作品制作を行う。
・相互鑑賞の機会を多く作り、鑑賞眼を高める。
・様々な形式・書体・書風の作品に取り組む。

２　学習の到達目標

・書道の活動を通して完成を高め、生徒が主体的に自己実現を果たしていく能力を伸ばす。
・生徒一人一人が独自の書作品を完成させる充実感や達成感を味わえるようにする。
・生涯にわたり書を愛好する心情を育てる″

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表現している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 レポート ワークシート 個人評価表	観察 レポート ワークシート 個人評価表 提出作品	観察 レポート ワークシート 個人評価表 提出作品	観察 レポート ワークシート 個人評価表 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	技法の習得	・古典からみる「用筆・運筆」の習得 ・「起筆」「送筆」「収筆」の徹底 ・「オノマトペ」実践 ・書写検定3級問題	○		○		a:用筆や運筆の特徴や、古典の書美と表現技法に関心を持ち、意欲的に身に付けようとしている。 b:基本点画や用筆の基礎を身に付けようと工夫している。 c:文字の調和と配列・配置について的確に表現することができる。 d:用筆や運筆、基本点画を身に付けて、表現の違いを理解している。	観察 ワークシート 個人評価表 提出作品
2学期	作品制作①	条幅作品制作 (校内展示(文化祭)やコンクールに出品)	○	○	○	○	a:これまでに身に付いた技量を使って、積極的に作品制作に取り組んでいる。 b:各古典から自分に合う書体・書風を選び、表現を工夫している。 c:各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる。 d:各古典の書体・書風の特徴を理解している。	観察 ワークシート 個人評価表 提出作品
	作品制作②	半紙作品制作 「漢字の書」「小楷の書」「仮名の書」より選択	○	○	○		a:これまでに身に付いた技量を使って、積極的に作品制作に取り組んでいる。 b:各古典から自分に合う書体・書風を選び、表現を工夫している。 c:各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる。 d:各古典の書体・書風の特徴を理解している。	観察 ワークシート 個人評価表 提出作品

3学期	漢字かな交じりの書	卒業制作① 陶皿書の制作 　自分に贈る「飾る言葉」	○	○		○	a:３年間の学びを通して、言葉の撰文から完成に到るまでの充実感や達成感を味わおうとしている。 b:皿という丸い空間に感興や意図に応じた表現を構想し工夫している。 c:古典に基づく表現や、個性的な表現、表現形式に応じて全体の構成を工夫することができる。 d:書道の学習で身に付いた感性や表現技法が生かされ、自分の今後を飾る書として鑑賞を深めることができる。	観察 ワークシート 個人評価表 提出作品
	創作	卒業制作② 色紙の制作 「感謝の気持ちの書」	○	○		○	a:３年間の学びを通して、言葉の撰文から完成に到るまでの充実感や達成感を味わおうとしている。 b:色紙という正方形の空間に感興や意図に応じた表現を構想し工夫している。 c:古典に基づく表現や、個性的な表現、表現形式に応じて全体の構成を工夫することができる。 d:書道の学習で身に付いた感性や表現技法が生かされ、自らの思いを他者に伝えることができることを理解している。	観察 ワークシート 個人評価表 提出作品

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。